

## 「2019年度 あいちの市町村所得」の概況

2019年度における愛知県内市町村の市町村所得の推計結果がまとまりましたので、公表します。

この市町村所得は、地域ごとの経済規模や産業構造などを示す指標で、国勢調査や工業統計調査等の各種統計資料に基づき、毎年、県と市町村が共同で推計しています。

### 1 市町村内総生産

総生産は、企業、政府等の生産活動によって新たに生み出された付加価値の合計（＝産出額－中間投入額）で、各市町村の経済規模や産業構造が把握できます。総生産の対前年度増加率が経済成長率です。

#### (1) 県全体（p.1）

本県経済は、消費税率の引き上げによる国内需要の減少や米中貿易摩擦による海外需要の減少を受け、足踏み状態となり、企業収益は大幅な減益となりました。2020年に入ると新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、本県経済は足踏み状態から悪化に向かいました。その結果、経済成長率は名目△3.4%（2018年度1.2%）、実質△3.5%（同1.5%）となり、名目、実質ともに3年ぶりのマイナスとなりました。（2022年3月11日公表済み）

#### (2) 地域別（p.2）

経済成長率（名目）は、尾張地域が△0.9%、西三河地域が△10.0%、東三河地域が△5.9%となりました。

#### (3) 市町村別（p.5-6）

総生産の1位は名古屋市の13兆9626億円で、全体の35.2%を占め、2位は豊田市の4兆4091億円（構成比11.1%）、以下、岡崎市1兆6753億円（同4.2%）、豊橋市1兆5473億円（同3.9%）の順となりました。

総生産の増加額が最も大きかった市町村は、岡崎市が446億円、豊山町377億円、小牧市261億円の順となりました。経済成長率を市町村別にみると、豊山町が28.2%と最も高く、次いで阿久比町8.7%の順となり、製造業が大きく減少する市町村が多いなか、製造業が増加もしくは横ばいを維持した市町村が上位の多数を占めました。プラス成長だった市町村数は、全体の約3割の15市町村でした。

### 2 人口一人当たり市町村所得

市町村所得（分配）を市町村人口で割った経済指標で、地域の経済水準を表します。なお、市町村所得は、雇用者報酬のほかに法人企業の所得などを含むため、個人の給与や収入の水準を示す指標ではありません。

#### (1) 地域別（p.4）

西三河地域が420万6千円と最も高く、次いで尾張地域351万6千円、東三河地域322万6千円の順となりました。

#### (2) 市町村別（p.8）

臨海工業地帯を有する飛島村が728万7千円で最も高く、次いで、豊田市585万7千円、みよし市525万円、田原市488万8千円と続き、輸送用機械関連の大規模な製造事業所が集積している市町村が上位を占めました。